

第7回 再生普及推進のための連携チーム会合

日時：平成30年5月22日(火)13:30～15:30

場所：釧路地方合同庁舎 7階第五会議室

議 事

1. 環境教育の取組み及び自然再生への参加機会の実施状況について
2. ウェブサイト等による情報発信について
3. 自然再生普及のためのパンフレットの活用方針について
4. 学校における湿原学習支援体制について
5. 再生普及行動計画の実施状況に関する情報発信について
6. その他(各小委員会からの提案・連絡事項等)

配布資料一覧

- | | |
|--------|-------------------------------|
| 資料 1 | 環境教育の取組み及び自然再生への参加機会の実施状況について |
| 資料 2 | ウェブサイト等による情報発信について |
| 資料 3 | 自然再生普及のためのパンフレットの活用方針について |
| 資料 4 | 学校における湿原学習支援体制について |
| 資料 5 | 再生普及行動計画の実施状況に関する情報発信について |
| 参考資料 1 | 再生普及推進のための連携チーム設置について |
| 参考資料 2 | 再生普及推進のための連携チーム取組み課題 |

第7回 再生普及推進のための連携チーム会合出席者名簿(敬称略)

<専門家>

所属等	氏名
再生普及小委員会委員長(前北海道教育大学釧路校准教授)	高橋 忠一
再生普及小委員会副委員長(湿原再生小委員会委員長、釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員)	新庄 久志

<小委員会事務局>

機関名 [担当小委員会]	出席者
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 [湿原再生、旧川復元、水循環、土砂流入、地域づくり]	欠席
環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 [湿原再生、森林再生]	自然再生企画官 中西 誠
林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター [森林再生]	所長 川渕 義昭
北海道釧路総合振興局釧路建設管理部事業室治水課 [土砂流入]	主査(河川) 赤塚 靖
北海道釧路総合振興局産業振興部商工労働観光課 [地域づくり]	観光振興係長 梨澤 亜弓

<オブザーバー>

機関名	出席者
北海道釧路総合振興局保健環境部環境生活課	係長 高橋 克巳

<事務局>

機関名	出席者
環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 [再生普及]	統括自然保護企画官 徳田 裕之 国立公園課課長補佐 桑原 康則 釧路湿原自然保護官 矢部 敦子
公益財団法人北海道環境財団 (再生普及行動計画オフィス)	事務局次長 久保田 学 環境教育推進課 安田 智子

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会 再生普及推進のための連携チーム名簿(敬称略)

2017年12月1日現在

<専門家>

高橋 忠一 (再生普及小委員会委員長)

新庄 久志 (再生普及小委員会副委員長、湿原再生小委員会委員長)

<協議会事務局>

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部

[湿原再生、旧川復元、水循環、土砂流入、地域づくり]

環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所

[湿原再生、森林再生、再生普及、地域づくり]

林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあいセンター [森林再生]

北海道釧路総合振興局釧路建設管理部 [土砂流入]

北海道釧路総合振興局産業振興部 [地域づくり]

北海道釧路総合振興局保健環境部

渡辺 修

<その他>

※ 委員長の判断により必要に応じて関係者に出席を要請する。

環境教育の取組み及び自然再生への参加機会について

平成 30 年 5 月 22 日
再生普及行動計画オフィス

各小委事務局から事前にご提供いただいた情報は次のとおり。 ●：主催事業 ○：協力事業

担当	自然再生への参加機会づくり	
	自然再生を活用した環境教育の取組み	自然再生への参加の機会づくり
湿原再生	—	<p><開建治水課></p> <p>● <u>釧路湿原を再生しよう！未利用地を湿原に再生する取組み 幌呂地区湿原再生現地見学会(ネーミングは仮称)</u></p> <p>日時：平成 30 年 7 月～8 月 場所：幌呂地区湿原再生箇所（鶴居村下幌呂） 内容：事業説明＋現場見学＋自然再生体験（ヨシ移植・外来種防除） 対象：一般市民</p> <p>● 鶴居村ふるさとまつり 湿原再生事業説明 日時：平成 30 年 9 月 場所：鶴居村運動広場 内容：事業説明ポスター展示、幌呂湿原再生模型展示、ハンノキパズル製作</p>
	—	<p><環境省></p> <p>● <u>アウトドア好き集まれ in 達古武湖(仮)</u></p> <p>日時：平成 30 年 8 月下旬（予定） 場所：釧路町達古武湖 内容：カヌーを使っのヒシ刈り（予定） 対象：独身男女</p>
旧川復元	—	<p><開建治水課></p> <p>● <u>釧路湿原を再生しよう！直線河道を蛇行河川に戻す取組み 旧川復元現地見学会(ネーミングは仮称)</u></p> <p>日時：平成 30 年 7 月～9 月 2 日実施 場所：茅沼地区旧川復元箇所（標茶町コッタロ原野） ヌマカ地区旧川復元箇所（標茶町オソベツ原野） 内容：事業説明＋現場見学（復元箇所 e ポート川下りほか） 対象：一般市民</p>

森林再生	—	<p><林野庁ふれセン></p> <p>●<u>雷別ドングリ倶楽部</u></p> <p>*森林再生のためのボランティア活動 日時：年5回開催予定 場所：雷別地区国有林（標茶町）外 内容：植樹とツリーシェルターの設置等 対象：雷別ドングリ倶楽部会員</p> <p>●<u>雷別へ植樹に行こう！</u></p> <p>*森林再生のための地域住民との協働による植樹 日時：平成30年6月9日（土） 場所：雷別地区国有林（標茶町） 内容：植樹とツリーシェルターの設置 対象：地域住民</p>
森林再生	—	<p><環境省></p> <p>●<u>自然再生を考える調査体験会(仮)</u></p> <p>日時：平成30年9～10月（秋予定） 場所：達古武の森林再生地 内容：未定 対象：一般市民など</p> <p>●<u>自然再生を考える調査体験会(仮)</u></p> <p>日時：平成31年1～2月（冬予定） 場所：達古武の森林再生地 内容：未定 対象：一般市民など</p>
水循環	—	<p><開建治水課></p> <p>●<u>水循環現地見学会</u></p> <p>日時：平成30年10月～平成31年1月 場所：未定 内容：湿原植生、地下水、土砂等の水・物質循環に関わる現地見学 対象：一般市民・協議会委員</p>
地域づくり	—	—
土砂流入	—	<p><建設管理部治水課></p> <p>●<u>久著呂川自然再生の見学ツアー</u></p> <p>日時：平成30年8月下旬（予定） 場所：久著呂川流域及び事業実施箇所 内容：事業説明＋現場見学 対象：一般市民</p>

再生普及	<p><環境省> <環境省> ●体感！釧路湿原～理科・社会科の視点から～ 日程：平成30年6月27日（水） 場所：赤沼、温根内ビジターセンター 内容：フィールドワーク＋座学 対象：小学校・中学校・高等学校教員 共催：釧路教育研究センター</p> <p>○標茶町立標茶小学校【実施支援】 日程：平成30年5月11日（金） 場所：達古武地区森林再生事業地、夢が丘木道および展望台 内容：フィールドの案内、取組みの紹介 対象：標茶小学校教員</p> <p>○標茶町立標茶小学校【実施支援】 日程：平成30年5月25日（金） 場所：達古武地区森林再生事業地、夢が丘木道および展望台 内容：フィールドワーク＋取組みの紹介 対象：標茶小学校5年生児童</p> <p>○釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検事前学習【実施支援】 日程：平成30年6月 場所：釧路湖陵高等学校 内容：座学 対象：釧路湖陵高等学校 理数科1学年生徒</p> <p>○釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検【実施支援】 日程：平成30年6月26日（火） 場所：達古武地区森林再生事業地、夢が丘木道および展望台 内容：フィールドワーク＋取組みの紹介 対象：釧路湖陵高等学校 理数科1学年生徒</p> <p>○釧路町立昆布森中学校【実施支援】 日程：平成30年10月 場所：達古武地区森林再生事業地 内容：フィールドワーク＋取組みの紹介 対象：昆布森中学校全生徒</p> <p>●第21回フィールドワークショップ 日時：8月23日（木） 場所：キラコタン岬～青沼 内容：青沼までの湿原核心部を散策 対象：ワンダグリンダ・プロジェクト参加者</p>	<p><ワンダグリンダ参加活動による実践予定> ○みんなで調べる復元河川環境・2018夏 日時：平成30年6月23日（土） 場所：釧路川茅沼地区 内容：蛇行復元された水辺環境の調査 対象：一般（KIWC主催・環境調査） 主催：釧路国際ウェットランドセンター</p> <p>○タンチョウの冬の食事場所を作ろう 日時：平成30年7月1日（日） 場所：鶴居村 内容：枯れ木や繁茂した木の伐採作業 対象：一般 主催：鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ</p> <p>○特定外来生物ウチダザリガニの捕獲体験 日時：平成29年7月22日（日） 場所：温根内ビジターセンター 内容：ウチダザリガニの捕獲体験と試食 対象：親子参加（小学生以上） 主催：釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会&こどもエコクラブくしろ</p> <p>○カヌーDE 清掃 in 達古武湖 日時：平成30年9月 場所：達古武湖 内容：カヌーに乗ってのゴミ拾いと「ヒシの実」試食 対象：一般 主催：環境コンサルタント株式会社</p>
------	--	---

ウェブサイト等による情報発信について

経緯

釧路自然環境事務所では、平成 29 年度に湿原データセンターについて、自然再生協議会構成員へのアンケートや学校教育や再生事業の普及啓発にかかわる再生協議会メンバーを対象にしたヒアリングをもとに、電子行政オープンデータ戦略に基づく改修を実施し、掲載情報の更新や充実を図っているところである。

しかしながら改修作業の中で、湿原データセンターの周知や定期的な情報の更新、多様な主体を想定した機能の追加といった課題が挙げられた。

これら課題に対応していくため、湿原データセンターの内容について検討していくとともに、その他の釧路湿原自然再生事業関連ウェブサイトへの要望や連携についても各サイト管理者へ提案を行うこととした。



湿地データセンター トップページ

湿原データセンター改修に関する試作版ヒアリング結果

ヒアリング実施者

氏名 (敬称略)	所属・役職
金子 正美	酪農学園大学 教授
境 智洋	北海道教育大学釧路校 教授
新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員
	湿原再生小委員会 委員長
高橋 忠一	再生普及小委員会 委員長
中村 太士	北海道大学 教授
	釧路自然再生協議会 会長
	森林再生小委員会 委員長
平岡 俊一	北海道教育大学釧路校 准教授
久保田 学/山本 泰志	公益財団法人北海道環境財団
渡邊 理実	北海道釧路湖陵高等学校

ヒアリング結果

1.内容について	
(1)全体に関する意見	
1	ユーザーは一般の人を想定するのが良い。 博物館、美術館の説明文などは中学生が理解できるレベルとするのが基本となっている。
2	若い人向け、高校生向けにつくりたい。そういう人たちに有効な文献が提供出来るようなデータベースサイトであってほしい。
3	サイト内の文章は限られたものだけを出す。 頻繁に更新できないので、仮に古かったり、間違った情報をアップしておく、ユーザーはそれを信じて、コピーペーストして、情報が勝手に広まってしまう。
4	可能な範囲で構わないので、専門用語は小中学校の先生が理解できる程度にわかりやすく表現して欲しい。
5	オープンデータ化されたデータ(デジタル化されたレベル1のデータ)が検索・ダウンロードできる環境省の求めるハコが完成したといえる。 しかし、まだまだ完成形にはなっておらず、一般市民や役場の人が使いこなせるものにはなっていないと思う。一般市民や役場の人が使えるようにするためには、更に手を加える必要がある。(例: GISデータの説明などの補足説明) また、データカタログのデータを活用し、一般市民や役場の人が利用できるような様々な加工データ(地図やパンフレットなど)を作成することが出来る。今後は、そのような加工データも追加していく必要がある。
6	釧路DCには再生事業の情報だけ載せるという考え方もあると思うが、学校の先生にとったらあちこちのサイトに行って資料を集めるのは大変。また、小学校の先生などは専門が理科という人は少ない。できれば先生が一連の資料を全てこのサイトで集められるようにするとよい。ただ、そういうわけにもいかないことは理解できる。
7	サイトに掲載する文章は英訳を想定して作るべき。 それを意識しないと英訳しづらい文章ができてしまい困ることになる。
8	今行われている再生事業について、そのバックグラウンド、なぜやっているのか、何をしたのか、その成果、今後の展望を知らせる必要がある。 つまり再生事業の紹介が必要であり、どこまでやっているのか、成果など変化のあるものは一年に一回更新していく。バックグラウンドや目標、手法、すでに得た成果は一度作成したら、事業内容が大きく変わらない限り更新する必要はない。たとえば、5~10年で事業評価をするので、そのとき大きく変えればよい。
9	各小委員会で作成する事業の紹介は、対話形式で文章を作成したらよいのではないかと。ニュースレターを作る様な感覚でやれば負担が少ないのでは。
10	今後、各事業の概要を一年ごとに掲載することについては、ニュースレターを活用するのが良いと思う。 しかし、ニュースレターに加えて、更にわかりやすくした概要版作成を各小委員会にお願いするのは難しいかもしれない。 また、各小委員会で個別に作成するとフォーマットが異なってしまうので、ニュースレターを元に再生普及小委員会(以下、普及小)で一括して概要を作成するのが良いと思う。そのためには、その作業分の予算を普及小に追加する必要がある。
11	会議資料の一覧には、ニュースレターも閲覧できると良い。
12	環境省に聞いて関連業務について追加すると良い。 以前、釧路国際ウェットランドセンターで釧路湿原に関する年表を作成していたので、それを活用して年表に追加すると良い。

(2) 個別ページに関する意見		
1	釧路湿原の歴史	年表は地質年代と人が関係する歴史がごちゃごちゃになっている。これらは区別した方がよい。
2	釧路湿原の歴史	年表は2万年前くらいからでいいが、地質学的年代と人の歴史の二本立てがいい。
3	釧路湿原の歴史	年表に記載する内容は短くていいが、ポイントとなる項目は詳細説明やコラムにリンクで飛ばしたり、図、写真などが見られるようにしたらい。
4	釧路湿原の歴史	釧路湿原の歴史は、開発(農地転換や、埋め立て)が優先された時代からワイズユースに舵を切るまでを押さえてほしい。 また、地域づくり小委員会が新たにできたように、最近では観光産業との関連も出てきており、新たな歴史となると思う。
5	釧路湿原の歴史	釧路湿原内だけにとどまらないが、釧路川は過去木材の運搬などに使われており、河口にある釧路市の発展に寄与してきた。また、上流部での開発の功罪なども釧路湿原の外のことであるが、歴史の中で触れておいた方がよいと思う。
6	データカタログ	文献、事業報告書はどこに行けば情報が入手できるのかを記載する。
7	データカタログ	「報告書」には学術的なもの(推進費や科研費がついているものも報告書といって提出しているのが現状)と行政の業務報告書のようなものが一緒になっている。 混乱するかもしれないので、サイト運用後は注意しておいた方がいい。
8	データカタログ	データカタログサイトでは、「数値データ」という項目があるが、これからくるイメージからはシカの頭数とかシマフクロウは何羽いるとか、湿原の面積とか、統計的データのように見え、生データの数値が載っているようには思えない。言葉をかえたほうがいいのではないかな。
9	湿原を知る	湿原のでき方などの説明には図や写真などを多用した方がわかりやすい。
10	自然再生を知る	生態系サービスの説明の図は字が多すぎる。もう+A29:F42少しシンプルにしたほうがよい。
2.方法について		
1	サイトにのせる文書については新たにボランティアなWG立ち上げ、チェックする用に使う。 (具体的な作業手順予想・・・新たに作成した文章をまずWGで確認→その後小委員会や協議会委員に対して縦覧→委員から意見をいただく→修正等してアップロードする)	
2	運営等については事務局負担が増えないよう、外部発注するなどしたらよいと思う。	
3.今後について		
1	サイトが出来上がった後も、学校教育や普及の専門家(境委員や山本委員)に意見をもらおうとよい。	
2	釧路湿原データセンターが今後しっかりメンテナンスされて毎年データが更新されるようになると素晴らしい。 作った後に更新されることが大切。 釧路湿原データセンターが呼び水となり、当事者意識を持って能動的な活動につながっていくと良いと考えている。 民間企業が入り、地域の人たちと協力して進めていければと思う。	
3	重要なのは、一般市民に湿原を守ることがどれだけ生活に関係しているかを理解してもらうこと。数年前の洪水時に、常呂川と釧路川では被害の大きさが全然違った。 その時、初めて湿原の大切さに気付かされた人が多かったと思う。一般市民にとって、多様性や希少生物の保全といっても実感がなく、生活に密着していないと、湿原を守ろうということにはなかなか繋がらない。ウェブサイトだけで完結できることではないが、釧路DCが一般市民にとって理解でき、クリックすると興味を持ってもらえる。サイトを見たくなる。そんなウェブサイトにすることが大切だと考えている。	
4	サイトの文章に関する意見や質問はすぐに対応するのは困難なので、定期的(年1回くらいか)にWGにかけ回答や対応を決めていく。	
5	環境省、開発建設部などが普及啓発事業で子供向け、市民向けに川の調査など体験プログラムを実施している。 このときに参考となる生物の情報等が釧路DC載っているといい。さらに、図鑑みたいなのがあればよい。	
6	他のデータベースのデータが検索・ダウンロードできるようになるとよい。	
7	GIS上での検索ができるようになると良い。	
8	データベースとは、無目的に作るべきである。釧路DCのデータベース(データカタログ)はシンプルで無目的に作られていて良いと思う。 何にでも活用できるものになったと思う。今後は、ベースであるハコをしっかり作った上で、目的に合わせて枝葉的にユーザーにあった使い方を提供していく必要がある。	
9	高校教育課程の社会でGISの学習などを目玉とする「地理総合」が2022年以降に必修化される見通しも出ている。そのような流れもあり、このデータカタログを活用して授業が行えるような活用事例が必要である。	

10	サイト更新のための予算が必要となる。現在再生協議会にある基金を使用するか、また、新たに協議会委員などに寄付を募るということも考えてもいいのではないか。
11	釧路湿原に関する情報は博物館、図書館にもあり、そのような施設が提供している情報と釧路DCがかぶらないようにし、釧路DCの維持管理に過度な労力をさかなくともいいようにしたらよい。
12	小委員会委員は多様な人が集まっており、専門的な人もいれば、学校支援WGの先生方のように理科系専門の先生とは限らない。湿原の知識は一般の人とあまりかわらないと思う。この点を考慮して分かりやすい情報提供に心がけてほしい。
13	釧路DCでは、情報を得るための方法、情報や資料がある場所、「〇〇を知りたいなら、こういう方法がある」という様なことを提供する。
14	釧路DCは釧路湿原に関わること、再生事業に関わることを情報提供する。 再生事業で、今何が行われているか、何のためにやっているか、何をやっているかの情報を提供し、その成果を知りたい、目標を知りたい人のニーズに答える。 湿原一般に関することは、ネットが普及した今に置いては他にもよい情報があるので、釧路DCでも情報提供するということの必要性はない。
4.その他	
1	過去に大量の文書をスキャンしOCR機能を使ってテキストデータとして取り込んだ。 そのデータは、株式会社環境コンサルタントが持っている。 著作権が問題となり、オープンデータ化することは出来ないが、環境省は活用することが出来て、報告書や計画を書く際に役立てることが出来ると思う。 データは、財産なのでデータの存在を忘れないようにするべき。 例えば、検索には引っ掛かるようにしてダウンロードできないようにする、もしくはデータ一覧リストを管理しておく必要がある。
2	再生普及小委員会でも釧路DCを使ってもらうように周知する。
3	釧路湿原に関する情報提供は、湿原周辺にあるビジターセンター等も活用すべきと思う。
4	サイト更新が完了したら、宣伝用に一枚物で釧路DCを説明するペーパー作ったらよい。

自然再生普及のためのパンフレットの活用方針について

平成 29 年度に釧路湿原自然再生ガイドブック「湿原とともに暮らす未来の子供たちのために」を釧路湿原自然再生協議会で作成し、現在下記に配布している。

今後自然再生にかかるイベント等での利用を進めていくこととしたい。

- ・ 釧路湿原自然再生協議会構成員
- ・ 北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター
- ・ 釧路市動物園
- ・ 釧路市立博物館
- ・ 温根内ビジターセンター
- ・ 塘路エコミュージアムセンター
- ・ 細岡ビジターズラウンジ

学校における湿原学習の支援体制について

○背景

- ・湿原学習のための学校支援ワーキンググループ（以下、学校支援 WG）では、流域における湿原学習の活性化を目的として、教員研修講座や授業支援を積極的に行っている。
- ・それらの中で、釧路湿原と地域社会の課題を学ぶ機会として、自然再生事業地を活用したモデル授業や教員研修についても実施しており、教員からも一定の評価を得ている。
- ・一方で、カリキュラムの中でフィールド学習に十分な時間を取ることは容易ではないことや、学習効果の側面からは、児童に身近な環境を扱う方が教材として適している等の指摘を教員から受けることも多く、学校から近距離のフィールドを活用することが望まれる。
- ・これまで、主として学校支援 WG 事務局がフィールドワークを企画し現場の案内やレクチャーを行ってきたが、事業地において実施可能な活動の判断や専門性には限界があり、多様なプログラムを学校に提案し実践を作り出すためには、事業地を所管する各事務局との連携が期待される。

○自然再生事業地を活用したこれまでの取組み

- ・茅沼地区自然再生事業地
 - 教員研修講座（2015年7月） / 講師：開発局治水課 / 座学・魚類相調査体験
- ・幌呂地区湿原再生事業地
 - 教員研修講座（2015年10月） / レクチャー、泥炭の体感
- ・達古武地区森林再生・達古武湖自然再生事業地
 - 教員研修講座（2016年9月） / レクチャー、ヒシの繁茂、森林再生事業地観察
 - 釧路湖陵高校授業支援（2017年6月） / 調査体験、夢が丘木道フィールドワーク
 - 教員研修講座（2017年9月） / レクチャー、ヒシの繁茂、森林再生事業地観察
 - 昆布森中学校授業支援（2017年10月） / 調査体験
- ・土砂流入対策事業地（久著呂川）[河道安定化対策事業地]
 - 教員研修講座（2015年10月_2件） / レクチャー、浸食状況・取組み等の観察
 - 教員研修講座（2016年7月） / レクチャー、浸食状況・取組み等の観察
 - 鶴居小学校授業支援（2016年7月） / レクチャー、浸食状況の観察
 - 釧路湖陵高校授業支援（2016年8月） / 浸食状況・取組みの効果等の観察
 - 阿寒高校授業支援（2016年10月） / レクチャー、浸食状況・取組み等の観察
 - 標茶小学校授業支援（2017年9月） / レクチャー、浸食状況の観察
 - 阿寒高校授業支援（2017年10月） / レクチャー、浸食状況・取組み等の観察
- ・土砂流入対策事業地（久著呂川）[湿原流入部土砂調整地]
 - 教員研修講座（2016年7月） / 講師：新庄座長 / レクチャー、河床堆積物観察他
 - 釧路湖陵高校授業支援（2016年8月） / レクチャー、河床堆積物観察他

○連携体制（案）

再生事業地 各事務局

- ・ 所管する事業地において参加者の年齢や人数等に応じた実施可能な体験活動案、学習可能な内容、実施条件等の情報提供。
- ・ 教員への提案、調整時における学校支援 WG 事務局への各種助言
- ・ 状況に応じて、教員研修やフィールド学習当日における体験活動の指導、レクチャー等の協力。
- ・ 必要に応じて、学校支援 WG 事務局を介した学校からの要望への対応協力。（例：資料提供、出前授業等）

再生普及小委員会 学校支援 WG 事務局

- ・ 再生事業地各事務局からの提供情報を踏まえて、教員研修講座の企画、教員へのフィールド学習の提案等
- ・ 教員との意見交換、要望等を踏まえて、フィールド学習の対象事業地事務局と刷り合わせ
- ・ 教員研修、授業支援の実施に係る各種調整、実施当日の対応

平成30年 5月 22日
再生普及行動計画オフィス

再生普及行動計画の実施状況に関する情報発信について

1. 目的

- ✓ 環境教育・市民参加機会についての情報発信の強化
- ✓ 各小委、再生普及行動計画オフィスの活動の周知
- ✓ パネル（作成見込み未定）を補完する旬の情報発信
- ✓ ビジターセンターでの自然再生に関する新たな情報発信

2. 内容

- ✓ 釧路湿原自然再生事業に関する環境教育・市民参加機会の実施状況等について、写真及び簡易な説明によりビジターセンター等に掲示し、随時更新する。
- ✓ 自然再生実施者による市民参加行事の他、学校支援 WG による湿原学習支援活動、各種協力事業等も対象とする。
- ✓ 併せて、その時点で予定されている環境教育・市民参加機会やワンダグリンド・プロジェクトに関する情報等を配布物（チラシ、リーフレット等）や掲示等により情報発信する。
- ✓ 同情報や掲示実施状況等をワンダグリンド・プロジェクトのメールニュース等でも紹介する。
- ✓ 当初、温根内ビジターセンターでの実施を想定。

3. 備考

- ✓ 事務局が日常業務で接する現場の情報を手間・負担をかけずに随時発信する。
- ✓ 展示や行事を考慮し、ビジターセンターの協力が得られる範囲で実施する。

「再生普及推進のための連携チーム」の設置について

2015年 7月10日
釧路湿原自然再生協議会
再生普及小委員会 決定

1. 背景・経緯

- 釧路湿原自然再生協議会（以下、「協議会」）は、第21回会合（2015年3月16日）で第3期釧路湿原自然再生普及行動計画（以下、「行動計画」）を採択した。
- その際、第2期行動計画までの推進主体であった「再生普及行動計画ワーキンググループ」は第27回（2015年2月9日）を以て終了し、今後は再生普及小委員会が行動計画の推進主体となること、このために同小委員会内に新たに（仮称）「行動計画推進チーム」を設置して小委員会間連携、調整等を行うこと、必要に応じてワーキンググループ等を設置すること、が併せて了承された。
- 第25回再生普及小委員会（2015年7月10日）において、名称を「再生普及推進のための連携チーム」とすることとされた。

2. 設置目的

- 釧路湿原自然再生全体構想（2015年3月改訂）に基づき、第3期行動計画の重点分野を小委員会連携の下に進めるために、自然再生事業実施者等が参画して再生普及小委員会の検討・協議事項に関する企画立案・調整等を行う。

3. 構成

- 再生普及小委員会委員長及び副委員長
- 釧路湿原自然再生協議会事務局
- 委員長の判断により必要に応じて関係者に出席を招請
- 事務局は、環境省釧路自然環境事務所（再生普及小委員会事務局）が担当する（日常的には「再生普及行動計画オフィス」（釧路湿原野生生物保護センター内）が担当）

4. 会合開催方針

- 本チームは、主として再生普及小委員会開催に先立ち、年2回程度会合の開催を予定する。
- 必要に応じて会合を招集、または、小委員会事務局間打合せ等を実施する。
- 会合開催状況は、再生普及小委員会に報告する。

「再生普及推進のための連携チーム」の取組み課題

2015年 7月10日
釧路湿原自然再生協議会
再生普及小委員会 決定

1. 自然再生の普及のための効果的な情報発信(行動計画 3-2 関係)

- 再生普及小委員会で制作を予定する、釧路湿原の生態系サービスや自然再生を普及するためのツール（パンフレット、パネル等）の作成方針を検討する。
- 自然再生の具体的な計画や実施状況に関する各小委員会及び協議会全体の情報発信、普及方策に関する評価を共有し改善を検討する。（協議会及び行動計画のホームページの改良等）

2. 自然再生の環境教育への活用促進(行動計画 3-2 関係)

- 各小委員会による自然再生の環境教育への活用予定、実施状況を毎年度把握し、成果と課題を共有する。
- ※ 各小委員会の自然再生の環境教育への活用の可能性や方針について共有し、協議会としての活用方策を検討する。

3. 自然再生への地域・市民の参加の促進(行動計画 3-3 関係)

- 各小委員会による自然再生への参加機会づくりや地域・市民によるモニタリング、現地見学会等の事業計画を収集（情報提供を要請）、集約・共有し、協議会としてまとめて情報発信していく。
- 各小委員会の担当分野における、地域・民間主導による自然再生または自然再生に資する活動（＝いわゆる「小さな自然再生」に相当する活動）に関する事例を収集（情報提供を要請）し、ワンダグリーンダ・プロジェクトへの参加等を促していく。

4. その他

- 釧路湿原自然再生協議会基金の具体的な運営体制を検討する。
- 上記に関わらず、再生普及小委員会に対する協議会及び各小委員会のニーズを受け、対応方針等を検討する。